

ました24名分、平成28年度は今のところ18名分という記録がございます。

今、きょう本庁に持ってきてる手元の資料では、そこまでかわからないということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

じゃ、もう一度、副市長にお伺いいたします。

本当にこのシステム、もう一度見直しをしていただくとありがたいです。やはり、疑念を持たれるようなことになると、私もせつないし。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほども申しましたとおり、このシステムにつきまして、精査をした上で改善をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

笠原議員。

2番（笠原幸江君）

ありがとうございました。

これで、私の一般質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

ここで、昼食時限のため暫時休憩をいたします。

午前11時49分 休憩

午後 1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実です。

今回で、通算55回目の一般質問となります。よろしくお願い申し上げます。

発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、シーフードの街いといがわ「糸魚川 SEAFOOD CITY」について。

私たちが、ふだん何げなく食べている地元の食材や料理が、市外の方からおいしいと評価をされることは、皆さんも経験されていると思います。特に、魚や貝や海藻などの鮮度と味は、日本有数のおいしさで評価を得ています。また、珍しい魚のとれることが、地域固有の食文化をつくってきました。

そこで、シーフードを活用し、市民みんなで糸魚川の未来をつくることを提案し、質問します。

- (1) 「シーフード」をキーワードとする地域振興についての市長・行政の見解を伺います。
- (2) 「シー（海洋）」と「フード（食材・食事）」の活用は、糸魚川市が観光や雇用や移住や留学の目的地となるために不可欠なものと考えます。具体的に以下の点について、現在の市の取り組みと将来に向けての課題点を伺います。

シーフードによる売り上げ調査、地消地産の現状について。「食べる観光」や健康増進、食文化の伝承など、糸魚川版DMOにおけるシーフードの活用について。

糸魚川青年会議所が取り組む糸魚川シーフードシャトルバスなどの、日本海北アルプス広域観光連携での活用や、小谷・白馬・大町地域連携DMOと連携する広域連携DMOについて。

海洋高校のさまざまな取り組みと、糸魚川のブランドづくりについて。

- (3) 糸魚川市が有する海洋資源の活用と保護による持続可能な地域の実現を、これからの糸魚川市のまちづくりの大きな柱とすることについて伺います。
- (4) 「糸魚川 SEAFOOD CITY宣言！」を提言いたします。市長の見解を伺います。

2、ヒスイの「国の石」認定とその活用について。

- (1) ヒスイによる糸魚川の知名度アップについて伺います。
- (2) ヒスイの活用はジオパークと一体ですが、具体的に以下の点について、現在の市の取り組みと将来に向けての課題点を伺います。

ヒスイ峡や親不知ピアパークや翡翠園など、市内に数多くあるヒスイ原石に触れることのできる場所の活用について。

河川のヒスイの保護について。

押上ヒスイ海岸の観光活用と押上駅建設推進について。

国立科学博物館との連携、ヒスイ文化フォーラムの資料活用について。

ジオパル内か糸魚川駅自由通路に、「出雲のヒスイまがたま」や「三内丸山のヒスイリング」と、糸魚川で出土したヒスイ製品のレプリカを展示することについて。

ヒスイやヒスイ製品はどんな方が購入しているのでしょうか。男性と女性、若者と高齢者、国内と国外ではどういった違いがあるのでしょうか。そのマーケティングについて。

- (3) 人気テレビ番組「プラタモリ」などで、糸魚川のヒスイ、フォッサマグナ、マイコミ平などを撮影地として取り上げてもらう働きかけについて伺います。

3、医療現場の現状と課題について。

(1) 糸魚川市に顕著な人口減、超高齢化、少子化が加速する中、糸魚川の地域医療体制の継続は厳しく、近い将来、医療が一気に縮小するという厳しい見方もあります。

市内唯一の総合病院である糸魚川総合病院では、糸魚川医療圏域での2.5次救急医療確保を目指し懸命の努力をしてくださっていますが、厳しい状況が続いています。

市民の命を守る医療の確保と現場改善は、緊急かつ重要な課題です。市民が求める現状改善のため、さらなる行政対応を求め、以下伺います。

産婦人科確保のための市内出産促進の取り組み、8月10日の市内出産をテーマにした医療フォーラムの成果について。

医師・看護師不足、診療科の不足による市民からの苦情対応について。

患者・病院利用者・市民の医療マナー向上について。

医療機関と行政機関との連携や協働について。

きめ細やかな医療情報の出し方について。

(2) 医療格差による市外への人口流出とその影響について、米田市長はどうお考えですか、伺います。

4、権現荘問題について。

(1) ずさんな管理と運営を続けてきた権現荘の数々の問題の中から、以下の点について伺います。

小林前支配人が勝手に使用していた特別客室が、問題発覚後に議会承認もなくスタッフルームに変更された経緯について。

特別客室の下に位置する機械室と調理場換気扇の騒音対応をなぜしてこなかったのか。騒音が確認されたとき、あるいは4億円もかけたリフォーム工事のときに改修しなかったのは、接待と称して館内で飲食した前支配人がその騒音を理由に、ただで権現荘特別客室に泊まるための采配ではなかったかという疑念があるが、そのことについて。

今後の機械室騒音改修の予定と支出について。

(2) さまざまな問題発覚後の入込客減少、風評被害への対応、今後の経営について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、北アルプスから日本海までの高低差4,000メートルの起伏がもたらす漁場から水揚げされる新鮮な魚は、糸魚川の地域振興の重要な資源と捉えております。

2点目の1つ目につきましては、観光動向調査はカニやすし、海鮮丼の人気が高いという結果が出ております。今後とも、地産地消を推奨店の取り組みや、能生漁港の昼競りなどを生かした、旅行商品DMOの取り組みの中で進めてまいります。

2つ目につきましては、当市のシーフードを活用することにより、白馬村の魅力も向上すると、お互いにウイン・ウインの関係が築かれており、広域連携DMOを視野に入れながら生かして

まいりたいと考えております。

3つ目につきましては、海洋高校では能水商店を拠点として、最後の一滴を初めさまざまな商品開発・販路拡大に積極的に取り組んでおり、数々の賞を受賞いたしております。

また、海外へ販路拡大にも取り組んでいただいております、糸魚川ブランドとしての取り組みにつながっております。

3点目と4点目につきましては、海洋資源の活用はこれまでも、まちづくりの重要な柱として取り組んでおり、保護については漁業者みずから取り組む中で進めてまいっております。

これからも、当市のジオパークの恵みがもたらす、海洋資源の魅力を生かし活用することにより、市のPRや交流人口の拡大に努めてまいります。

2番目の1点目につきましては、当市が以前からまちのシンボルとして活用してきたヒスイが、日本の国石となったことを機に、市民や関係団体の皆様方とともに、官民一体となった、さらなる知名度の向上に取り組んでまいります。

2点目の1つ目につきましては、ヒスイの原石に、気軽に触れることができる場所がたくさんあることをPRし、誘客を図ってまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、国の指定区域内での採取は全面的に禁止されており、指定区域外でも少量の採取以外は許可が必要となっております。

3つ目につきましては、押上海岸におけるヒスイ探しについて、問い合わせや来訪者が増加しており、ヒスイ海岸へのアクセスがより向上することから、新駅の建設に向けた取り組みを進めてまいります。

4つ目につきましては、国立科学博物館とは調査・研究・資料協力などで、約20年にわたって連携をいたしており、フォッサマグナミュージアムや考古館の展示・解説などで生かされております。

5つ目につきましては、博物館での展示以外の目的は、所有者の了承を得ることは難しいと考えております。

6つ目につきましては、購入者の詳細は把握しておりませんが、シニア層の女性に人気があると、お聞きいたしております。

3点目につきましては、NHK新潟放送局や日本ジオパークネットワークを通じ、積極的な情報収集と情報提供に努めております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、フォーラムや広報、各種事業で周知を図っており、妊娠された方が、市内出産を希望する割合はふえてきております。

2つ目につきましては、市民の皆様から診療科の充実についてご要望いただいております、医師や看護師の確保に努めるとともに、取り組み状況について引き続き、市民の皆様へ周知をしてまいります。

3つ目につきましては、医療現場の現状を把握するとともに、医療機関と連携をしながら適正受診等について市民の皆様へ周知をしてまいります。

4つ目につきましては、地域医療の充実を図るためには、医療機関と行政との連携が重要なことから、今後も協働して取り組んでまいります。

5つ目につきましては、適時、正しい情報を市民の皆様へ提供してまいります。

2 点目につきましては、市内での医療の完結率は 8 割と高くなっておりませんが、常勤医師が不在の診療科目等については、市外への受診もあり、人口対策の上からも市内の医療体制の充実が必要と考えております。

4 番目の 1 点目の 1 つ目につきましては、騒音のため客室には適さなかったことから、6 月からスタッフルームとして表示をし、職員の休憩及び宿直室として利用してきました。

2 つ目につきましては、今回のリニューアル工事は長期間、全館休館としないことを前提としたため、機械室等のある東館は、改修区域から省いたものであります。

3 つ目につきましては、多額な費用が見込まれるため、現時点では改修することは難しいと考えておりますが、引き続き当該客室の運用について検討してまいります。

2 点目につきましては、本年度はリニューアル直後の昨年度に比べ、入込客は減少しておりますが、今後は冬のアンコウプランなどを初め、旅行代理店やスキー場などと連携いたしました旅行誘客活動や、平日対応の新たな企画に取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくご質問申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13 番（田原 実君）

では、シーフードの街といがわの再質問です。

そもそも、なぜシーフードで糸魚川の地域振興を進めるのか、私なりにざっくり言ってしまうと、糸魚川に固有の質の高いシーフードを生かした産業で、糸魚川を稼げるまちにし、持続可能なまちにしよう。住んでこそおいしいシーフードが食べられる、誰もが住んでみたいと思うまちにしようということです。

これは、最近耳にする観光による地域全体の振興策 DMO、(Destination Management/Marketing Organization) の考えと共通すると思います。観光とシーフードとは、組織や運営など、何をどのようにするという「What/How」の部分は違ってくるでしょうが、糸魚川を着地型のシーフードシティと考えてマーケティングし、水産業者・観光業者・飲食店・企業・市民が連携し、まちぐるみ、シーフードでもっと稼げるように変えていきたいと思います。このあたり、価値観を共有できたらいいなと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員ご指摘になったように、糸魚川市は海の幸が豊富でありますし、また山の幸も豊富ということで、恵まれた地域資源・食の資源というものがああります。その中でも特に、白馬・小谷を後背地に抱える中で、いかに糸魚川の魚を売り出していくということは、地域における差別化を図る上で

も、大変重要なことだと思えます。

そうした中で、ご指摘のようなDMOを進める中で、地域住民・地域の関係者、そういった方を巻き込みながら、皆さんと一緒になって観光振興・交流人口の拡大に向けて取り組みたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

基本的なところで合意形成できたと思えます。ありがとうございます。

それで、シーフードによる売り上げ調査、それから地消地産の現状について、担当課に伺います。

今、私は地産地消ではなく、地消地産という言葉を使いましたが、その意味をおわかりならば、それに沿って、お答えいただきたいと思えます。先ほど市長は、地産地消ということでお話されたんですけども、そのこのところ、ちょっとニュアンス違います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

地消地産につきましては、地元で消費するものを、地元で生産したものにしようという発想であるかと思っております。最近、里山資本主義の藻谷浩介さんが、この地消地産というもので中山間地域の振興を進めたらどうだというふうなこともクローズアップされていまして、また富山の氷見市などでも、こういう言葉を使った地域振興に取り組んでいるというふうなことも、お聞きしております。

それから、シーフードによる売り上げ調査の部分については、詳細はちょっとつかんでおりませんが、市内での水揚げが約16億ぐらいございます。仲買人さんによって、どの地方に流れていくかっていうのは、分析はなかなかとれておりませんが、約1割ぐらいが市内に出回ってるんじゃないかなというふうに、漁協の担当者からお聞きしておるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

シーフードを食べる観光、それからシーフードで健康増進、シーフード文化の伝承など、糸魚川版DMOにおけるシーフードの活用についてはいかがでしょうか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員のご質問の中にありました食文化の伝承といったことでは、旧糸魚川になりますけども、市政50周年の記念事業ということで、ふるさと伝承ガイドというのを作成しております。その中に、うまいもん50選というのがあります、パイガイの煮つけとかモズクの酢の物と、こういったものがあります。

いろいろ今、ご指摘いただいた部分でありますけども、観光におけるDMOの中では、やはりターゲットを絞って、その中で幾つかある観光の食の素材をどう組み合わせ、ターゲットに合わせた提供をできるかというのは一番課題になっておるとお思います。食の観光素材をピックアップする中でコーディネートしながら、それぞれのターゲットの皆さんにご提案・ご提供をしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川に住んでいるからこそ、おいしいシーフードが食べられるということが大切です。もし、漁師さんが減り、まちなかの魚屋さんが減り、おいしい魚を食べられなくなったら、私は糸魚川を出ていきます。そのくらい、魚が大好き、魚が大切な私が、ここで生きていく励みになっているのは、子供のときからの食生活のおかげかとお思います。今でこそ食育と言いますが、暗い寒い台所で魚をさばく祖母の手伝いをして、黒幻魚をてんぷらにするためにさばいたり、イカの皮をむいたりしました。そのときは、魚を臭いとは思いませんでした。

時代は変わりましたが、糸魚川がおいしい魚が食べられる環境にあることは変わりなく、フェイスブックなどSNSでも、糸魚川のおいしいシーフードが情報化され、発信されています。もし、糸魚川版DMOをシーフードの活用で進めるならば、家庭料理でも居酒屋さんのメニューでも、市内のあらゆるところ、あらゆる場面でおいしいシーフードが食べられていることが、見えることが大切です。その情報発信を市民と一体で進める必要について、担当課のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

おいしい魚のいわゆる情報発信というと、2本の柱があるかなとおっております。1つは、今、議員ご指摘のように、それぞれの市民が糸魚川のよさを感じ、糸魚川の魚のおいしさを感じる中で、今まさにSNSの時代です、口コミというのは非常に大事であります。従来の人から人への口コミではなくて、そういったSNSを使ったような口コミを、ぜひ、市民の皆さんからやっていただきたいし、そうなるような行政としての情報発信も必要だとおっております。

一方で、行政としてはパンフレットをつくったり、あるいは例えば糸魚川駅におりても、どこに魚が売ってるかわかんない、あるいはどこで魚が食べれるかわかんないといったようなご指摘も、時々あるわけですが、そういった中でマップをきちんと配らせてもらったりといったような情報発信を、これからも努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今ほど、市民の中のシーフードというお話が出ました。それで、おいしいシーフードを食べるための料理教室や魚のさばき方教室も、どんどん進めていく必要があると思います。お刺身をつくれない大人もふえているとか。せっかくおいしい魚が地元で売られてるわけですから、市民が新鮮な素材を、よりおいしく食べるスキルを多くの方が持つことに、行政も取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

魚をもっと食べたいという水産白書が、最近、発表されまして、魚を食べる頻度をもっと持ちたいという方が、アンケート調査の5割以上を占めていると。ただし、その料理をするのが面倒くさいというのが、約7割ぐらいあるということなんですね。

こんなことも含めまして、糸魚川市におきましては、子供のキッズキッチンであったり、お魚教室でありましたり、子供の時代からお魚をさばき食べるということの場も進めてきておるわけではありますけども、今、議員ご提言のような、市民を多く巻き込んで魚を食べることの雰囲気づくりというものを、もっと盛り上げる必要があるかなと思っております。

最近、SNSで糸魚川のラーメン紀行という、ラーメン同好会というのがSNSで載っかってると思うんですけども、それも一つの大きな発信の仕方ではないかなと思って、研究してまいりたいなと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

次に、青年会議所が取り組んだシーフードシャトルバスについて、これは糸魚川版DMOと広域連携DMOの先駆けとなる事業と、私は評価します。市からの支援はありがたかったと聞いております。将来を見越した若い人たちのアイデアに、行政が支援して結果を出しました。今後の検証と改善、継続的な支援が、きっと糸魚川の未来を変えてくれると思います。

ただ、この事業を知らない市民もいます。担当課から、ご紹介していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

青年会議所のメンバーがですが、白馬にたくさんの外国人が来ているらしいと、こんなうわさを聞く中で、白馬村に行きました。白馬村でお話を聞く中で、宿泊者がふえてると。

一方で、夕食を食べるのに困難な外国人も結構いらっしゃる。それだったら、夕飯を、ぜひ糸魚川に来てもらって食べていただければどうかと、こういう発想で始まりました。ことしの1月から2月の下旬まで、計11回の運行をしまして、100人の方からご乗車をいただいたということでもあります。

いずれにしても、今、お話の中で、市民がそれに気づいて官民一体となってやっていったということで、今後も、できたら続けていきたいなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

せっかく出た芽ですから、大きく伸ばしてあげてください。

次に、日本海北アルプス広域観光連携の事務局、これは糸魚川市ですが、シーフードを生かすことを考えていますか。大町・白馬・小谷は地域連携DMOを、平成31年3月にスタートさせることですが、糸魚川はそこにつながるシーフード・シティとして、広域連携DMOに参加して、大いに稼がせてもらうべきと考えます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

来年の1月から、またシーフードシャトルバスを運行しますが、それに先立ちまして今週ですけども、プレツアーというのを実施いたしました。この中で、プレツアーに参加した方は、白馬村・小谷村の宿泊業者のほかに、それぞれの村の副村長がお越しいただきました。ちょうど席が隣だったので、両副村長とお話をさせていただきましたけども、キーワードはやはり広域連携という言葉、それぞれの副村長から聞かせていただきました。とにかく糸魚川には、白馬村・小谷村にない海があって、そこにはシーフードがあると、こんな話もさせていただきました。

今、ご指摘のように広域連携をさらに深まるような取り組みを、今後も進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

マーケティングということで伺いたいんですけど、大町・白馬・小谷の年間観光客数は何人ですか。そのうち、どのくらいの人が「シーフードの街いといがわ」に来ると予想されますか。また、そのことで、どのくらいの経済効果があると考えられますか。日本海北アルプス広域観光連携の事務局としては、リサーチとマーケティングをしてあると思いますけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

平成27年ですが、小谷村・白馬村・大町市で約610万人の観光入込客がございます。このうち、このシーフードあるいは海の幸、糸魚川の魅力をお伝えすることによって、例えば1%、お越しいただければ、年間にしますと約6万人になります。6万人が、今、観光動態調査等の統計資料を使いますと、約3億7,000万円程度の経済波及効果があると考えております。少しでも多くのお客さんから来てもらえるような取り組みを、白馬村・小谷村・大町市の皆さんと連携する中で、情報をいただきながら取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうですね、予想ですけど、ちょっと目標値としては1桁違うんじゃないですかね。1%ですか、10%じゃないんですかね。それやっぱり、30億円くらいの効果出していくっていう、そういう話にしてもらいたいですけども、いかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

若干、控え目に答弁させていただきましたけども、議員ご指摘のように、多く来るように取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

山岳観光とインバウンドに「シーフードの街いといがわ」を、いかにマッチングさせるかということが課題であります。今後、グリーンシーズンのマッチングも考え、実証実験をしていかなければいけないと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

グリーンシーズンでいきますと、立山黒部アルペンルートがあって、黒四ダムには多くのお客さ

んが来ております。空バスが、ここの148号を通っているのが大きな課題となっておりますが、このお客さんをどうつかんでいくかと。

先日も台湾のお客さんが来られましたけども、この中で白馬村・小谷村・大町市と連携する中で、モニターツアーをやらせていただきました。こういった取り組みを通じる中で、どう今のグリーンシーズンのお客さんをこちらへ呼び込むか、今、そういったところにチャレンジをしているところであり、成果が出るように取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう少し突っ込んで話したいですね。やってくるのは長野県やインバウンドだけじゃないですよ。ね。「シーフードの街」といって「首都圏からも関西からもやってくると、そういうふうにしていただきたい。結果、どのくらいの経済効果が糸魚川に生まれるかというところを、予測立てて動くべきだと思うんですね。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

観光指標の中でも、稼ぐ観光といったときに、宿泊者数が非常に大きなウエートを占めているように考えております。今、17万8,000人が宿泊者として、年間来ておりますが、平成31年度に20万人とするという目標を立てております。この中には、今、ご指摘の関西圏・関東圏のお客さんが入ってくるわけですが、この数字でいきますと2万2,000人ふえます。これを宿泊費で計算しますと、約3億3,000万円ぐらいになるかと思えます。

当面、ここを目標にしながら、1人でも多くの方から糸魚川に来ていただいて、糸魚川に泊まっていただけのような観光を進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この、今回質問している一番の目的は、このことを進めることで、どのくらいの雇用が期待できるかと、どのくらいの定住人口増になると、どのくらい糸魚川市の税収がふえるかと、そういったことを考えてまちづくりをしていく。ただ単に、糸魚川版DMOとしてシーフードをテーマにするということじゃないんですよ。DMOそのものも、最終的には稼げるまちで、持続可能なまちづくりですから、ここは大事だと思うんですけどね。そこら辺は、どのように認識されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市の観光を進めていく上では、シーフードとは外してはいけない、まさに核だというように考えております。DMOの取り組みも含めまして、そのあたりをどうふやしていくか、皆さんとまた検討をする中で、シーフードを核とした観光振興についても考えていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

さて、そうなるためには、シーフードを消費する場所がふえることが必要です。市内の新幹線駅前市街地とか、あるいは港のある能生のまちなかとか、そういったところに日本海シーフードが食べられる場所を、戦略的にふやすまちづくりが必要だと思います。例えば、ぱっと目に入る看板をつけた店舗が集中するゾーンをつくる。私、以前にも議会で提案しましたが、「日本海お魚通り」とか、あるいは「日本海お魚横丁」でもいいですね。戦略的につくっていく必要があると思います。今、ここからの取り組みとして、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、ツアーを、ちょうど今の時期、関東から多くのお客さんが来ているツアーをやっております。その中で、日本海の旬の味を楽しめて、さらにかにや横丁へ行ってカニを買うことができると、こういったことをやっております。

今、ご指摘の中で、現状ではやはりマリンドリーム能生のかにや横丁が、非常に大きなウエートを占めてると思います。これが、またさらに拡大できれば望ましいわけでありますけども、現状の中では、このかにや横丁にお客さんを来るような取り組みを、まず第一に考えながら観光振興に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

海に、日本海に一番近い新幹線駅っていうことで新幹線つくったのに、おりたところに全然シーフードを感じるものがないじゃないですか。それ、渡辺課長、一番ご存じでしょう。いかがですか、これやっぱり、まちづくりとしてまずいと私は思いますよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

確かに糸魚川駅周辺ということになると、魚を食べるところがなかなか少ないというのも事実であります。こうした中で、マップ等をつくる中で、お客の誘導に努めております。

一方で、やはり今のかにや横丁でございませぬけども、マリンドリーム能生、あるいは親不知ピアパーク、いわゆる駅からいろんな地域に行ってもらおうということも必要だと考えておって、シーフードシャトルバスを運行しております。こうした取り組みを進める中で、市内全域の中でお魚を食べてもらえるといった取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

早く進めてください。

さて、シーフードの街の大きな柱になってくれるのが、地元海洋高校の大きな活躍です。最近の取り組みや、全国的な評価について、また今後の糸魚川のシーフードのブランドづくりも含めて、担当課から詳細にご紹介いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

サケ魚醤の最後の一滴、シーフードカンパニーで操業を始めたわけでありまして、操業開始時の計画の生産量、2年目でありまして、5年先の計画量と同じぐらいの生産・販売というふうな実績になってきております。

それから、先ほど市長答弁の中にもございましたけども、各賞の受賞を受けていると。昨年はフード・アクション・ニッポンアワード2015の審査員特別賞、ことしに入りましてグッドデザイン賞、12月の2日には首相官邸でディスカバー村の宝の賞を受けるなり、また新潟日報賞を受けるなり、非常に活動がいろんな賞を受賞してきております。あすにはまた、東京の御徒町駅前の土風炉という居酒屋さんで、実際に生徒が監修したメニューを販売するというふうなことで、全国的にも非常に海洋高校の知名度も、また糸魚川の知名度もアップしてきているというふうなことで考えております。

今、ご提案ありましたように、糸魚川でとれる水産資源を余りなく活用するように、いろんな商品開発も進められてきておまして、今後、これらの活動について産官学連携事業で、今まで以上に、糸魚川市としても側面から支援してまいりたいというふうなことで考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ご紹介いただきました海洋高校の取り組みですけども、新しい学校経営の形を示してくれたとい

うことで評価してるんですね。私はそのことを、糸魚川のまちづくり全体に展開できないだろうか
と期待するものであります。海洋高校のビジネスモデルを「糸魚川 SEAFOOD CITY」
のビジネスモデルにするということです。海洋資源の活用と保護による、持続可能な地域の実現を
目指す。そんなコンセプトでまちづくりができれば、今度は、地域づくりのグッドデザイン賞をも
らえるんじゃないでしょうか。こういった取り組みを、今からのまちづくりの大きな柱にしてい
たきたい。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく我々は、地域資源を生かしていきたいという形で、今、活動をさせていただいてお
る中においては、非常に今、この海を生かすこの海洋高校の皆様方の力というのは、非常に大きいもの
がございます。まだまだ、潜在的には広いものがあるだろうと思っておるわけでございますので、
連携をとりながら進めていきたいと思っております。食品加工という、ただシーフードのみならず、
全体的にも波及していくんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長、そういったまちづくりのシンボルとなる「糸魚川 SEAFOOD CITY宣言!」、
行っていただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々といたしましても、やはりいろんな全国的な観点から考えまして、前段で言っていたい
るように「SEAFOOD CITY」というような、「糸魚川 SEAFOOD CITY」
というキャッチフレーズの中で、私は十分やっていけるのではないかなと。宣言という形になっ
てくると、何かかた苦しう私は考えますので、そこまでいかない中において、もっとやはりそうい
ったところでPRがうまくいけるのではないかなと思っております。今、田原議員のキャッチフレー
ズの中で十分、私は対応できると捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。よろしく願います。

それでは、ヒスイの「国の石」認定とその活用の再質問であります。

ヒスイの「国の石」認定ですね、その活用の再質問。きょうは、私もヒスイをつけてまいりました。こことここと、カフスとつけてまいりました。あと、バックルがあればいいんですけどね、バックル持っておりません。

さて、ヒスイにより糸魚川の知名度はアップしましたか。これから、どのように展開されていきますか。その戦略を、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ヒスイが国の石になった時点で、新聞あるいはニュース等で、数多く報道されました。その後も、全国放送のクイズ番組でヒスイが取り上げられて、その中には糸魚川という名前も、国の石の紹介とともに出てきたということで、徐々にではありますけども、定着してきたかなと思っております。また、選定後、東京・大阪等でイベントをやる中でも、ヒスイのブースへのお客さんの入り込みが1.5倍ぐらいにはなってきたというような状況もあります。

いずれにしましても、この国の石に決まったということを好機に捉えながら、一番大事なのは、外から認められたということが一番大事だと思っております。ただ糸魚川市民がヒスイだと言ってるんじゃなくて、外から認められたということが非常に大事だと思っておりますので、そういったことをPRしながら、糸魚川の石、ヒスイをPRして、お客さんがたくさん来てもらえるように努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川市民にとっては、ヒスイが当たり前の物になってますが、ただ、今回、国の石認定になったということですね。それが、どのくらい素晴らしいことかっていうことを、市民にまだ伝わっていないような、というのは、「誰かこう、横断幕とかやらんのかね。」と、「市民会館のところこう、掲げないの。」っていう、お祝いムードを出せとは言いません。けども、市民が誇りに感じるような、そういう市民向けのまだアピールが足りない、そんな声が出てます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

認定後ですが、糸魚川市役所の本庁と、それからフォッサマグナミュージアムに、「祝ヒスイが国石になりました」といった横断幕ではないですが、紙で表現させていただいております。その後ですが、ポスターをつくり、チラシをつくり、タペストリーをつくり、いろんな形でPRに努めて

いるところであります。

ご指摘の部分、いろいろ検討をしたんですけども、祝といった中で書くと賞味期限が短いんじゃないかと。それよりも、「ヒスイが国石になりました」といったポスターをつくっていったほうが、長く張っていただけるんじゃないかという、費用対効果も考える中でやらせていただいております。

ご指摘の部分でありますけども、1月の下旬ですが、来月になりますけども、ヒスイのフォーラムをやっていきたいというように考えております。その大きい見出しが、「ヒスイで糸魚川を輝かせよう」というサブタイトルをつけておりますけども、いずれにしても、市民みんながこのヒスイを使ってまちづくりを進めていくんだといった取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

いいですね。そのようにお願いいたします。

次に、河川のヒスイの保護について伺います。もう一度、担当課からの踏み込んだ説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

市長の答弁にもございましたように、国の指定区域内、指定文化財の区域内の採取を、石に限らず全ての動植物等も含めまして、全面的に禁止となっております。ただ、その区域外では、少量あるいは一時的な採取につきましては容認されてるような形になりますけれども、大規模な採取については許可が必要だというのが、法で定められているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう少し、場所を具体的に特定して説明願えませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

失礼いたしました。

小滝川の硬玉産地につきましては、今、ヒスイの原石にさわることができる史跡がございますけれども、そこのおおむね164メートルの範囲が、その指定区域内となっております。

また、青海川の硬玉産地につきましては、真砂橋と言われております橋立のところから上流、約

477メートルの区域、ここが指定区域内となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

小滝川の下流のほう、姫川に接するところか、あるいは姫川の河川というのはどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

指定区域内につきましては、採取が禁止をされているというところでございます、その範囲内につきましては、文化財保護法で及び河川法で守られておりました、それ以外につきましては、その法に定められて、それ以外の地域ということになりますので、先ほど申し上げましたように、少量もしくは一時的な採取以外については、許可が必要であるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだ、ぼやっとしてますね。さまざまな法律の縛りがあることはわかりました。

ヒスイ原石が勝手に持ち出されたり、勝手に売買されていることは、資源保護の上であってはならないことです。これが明らかになると、世界ジオパークの認定にも影響ありますよね。

現状では問題ありませんか。問題がある場合は、どう対応しますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

ジオパークを進めていく上で、やっぱり保護と活用というのは、非常に重要な要素になっております。文化振興課がヒスイ峡の管理計画を策定した中で、これまでの範囲、今、ご説明しました範囲、さらに広く広げる形で保存活用範囲を策定しております。こういった取り組みも含めながら、どう保護・活用していくかということが重要でありますし、私ども、今回のヒスイの国の石になったポスターの中にも、資源保護といったことを、小さい字ではありますがもうたっております。保護と活用、そして利用をうまく両立しながら、ヒスイを活用したまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

押上ヒスイ海岸の観光活用と押上駅建設推進については、先ほど市長から前向きなお答えいただきました。ありがとうございました。

せっかくなんで、担当課さんから少し、アイデア等あればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

おっしゃられるとおり、押上駅につきましては、本当にヒスイ海岸に近い駅ということで、糸魚川駅も近いといいますが、糸魚川駅は約400メートルぐらいですね、直線で。押上駅に關しますと、もう300メートルもないぐらい近い駅となっております。

そんな中で、新駅につきましては、当然、地域づくりとかまちづくりを踏まえた駅づくりというのを考えておりますが、押上において、やはり海岸というものにつきましては、それを見据えてまちづくり・地域づくりが必要だと思っておりますので、今後とも、地域の皆さんとお話をしながら、こういった活用ができるのか、またこういったコンセプトとして、こういった形で使っていただけるかといったものを検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よろしくをお願いします。

では次に、国立科学博物館との連携、それからヒスイ文化フォーラム、糸魚川でこれまでやってまいりましたね。そういった資料がたくさんあると思うんですね。その活用について、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

フォーラムにつきましては、このような冊子を報告書としてそれぞれ発刊をしております、現在も取り扱いをしております。一部、売り切れてしまったものもございますが、今でも、考古館のほうでは販売をしております、フォーラムの内容の発表につきましては、そのような形で公開をしておりますし、国立科学博物館とは連携を現在も深めておるところであります。

例えば2004年には、平成16年ですけれども、特別展、ヒスイ展ということで開催をしておりますし、またそれぞれの勾玉の、糸魚川にあるものを科学博物館のほうで展示していただいたり、また博物館ものを糸魚川で展示したりといったような連携を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ご説明いただいたんですけど、目に見える形になってきてないんですよね。例えばホームページを拝見しても、そこら辺のことがちょっと見えづらいんじゃないかと思うんですよね。せっかくフォーラムやったんだったら、その著作権のこともあるでしょうけど、そういったことを記事に出すとか、研究者に、あるいは子供たちがすぐ調べられるように、ホームページとかつくってほしい。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

現在、そのようなホームページのつくりになって、記事のほうも掲載されておられない状態だと思っておりますので、そのように対応を進めていければと思っております。ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

先ほど市長の答弁で、ちょっと難しい問題があるということでもあったんですけど、皆さんもご存じの有名な出雲のヒスイの勾玉ですよね、それから三内丸山のヒスイリング、これ勝手に私がヒスイリングって言ってるんです、こういう形の物、これらのレプリカと糸魚川で出土したヒスイ製品のレプリカ、その世界では有名な物ありますよね。それをこう、3つ並べて解説するという、そういう取り組みは、このヒスイ文化の発祥地を糸魚川市が名乗るのであれば、あってしかるべきなんじゃないかなって思うんですね。このタイミングで、そういったことにチャレンジするというか、私はあって当たり前と思ってるんだけど、そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

特に、出雲大社が所有しておりますヒスイのいわゆる勾玉でございますけれども、なかなかこれまで、展示にしたいので貸してくれというような話をしたことがございます。また、レプリカの作製についても要請をしたことがあるんですが、なかなか所有者の理解を、了承を得ることができませんで、現在のところレプリカは地元、島根県のすぐ出雲大社の近くにありますが古代出雲博物館、そこに1点、レプリカであってもその1点のみが存在するというふう聞いておまして、それ以外のレプリカの作製、レプリカであっても作製についてはなかなか、ご対応いただけていないような状況ではありますけれども、三内丸山の玉のレプリカは、現在も考古館で展示をされておしま

すので、そういったことで糸魚川のヒスイと並べるというアイデアは、考古館等での展示に可能であれば生かしていきたいと思っておりますが、出雲大社のヒスイの勾玉については、レプリカの作製も難しいということでもありますので、そこら辺をクリアできれば、そのような展示に向けて進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

やはり、糸魚川が頑張らないと、その3つなら3つが並んでこう、理解するようなものっていうのはやれないと思うんで、ぜひ多くの人目につく場所にそういった展示、写真でもいいです、お願いしたいと思います。

次に、ヒスイやヒスイ製品のマーケティングについて、今回、分析されたら、もうちょっと詳細を伺いたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

市内のヒスイ商組合を初めとして、ヒスイを販売されておられる店舗にも照会を入れてみました。やはり、取り扱うお店によって、いろんな傾向がございます。あるいは市内のヒスイ商組合の皆さんが首都圏で販売した場合に、どんな傾向があるかということもお聞きいたしました。やはり総じて言えるのは、やはりシニア層の女性に人気が多いんだというふうなことに結論づくのかなというふうに考えております。

そういうようなことで、糸魚川市においてもヒスイネイルでありましたり、ジュエリーコンテストで、ことしも417点で、過去最高の募集があるというふうなことでございまして、やっぱりシニア層以外のヒスイの人気も高めていく必要があるなというふうには考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ヒスイは日本人の感性に響く石ですね。ただ、宝石として使うのは難しいというふうにも聞いております。ただ、着物、和服といった和装にはぴったりだと、私は思います。

そこで、その分野でステータスを示す宝石として生かすという、そういう特化したやり方ってのはあるんじゃないかと思うけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員言われますようなその幅広の、今までのヒスイの加工では考え出なかったようなところ

も含めて、ジュエリーコンテスト等で幅広の利用が、これからどんどんと広がっていくんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、医療現場の現状と課題について、2回目の質問に移ります。

市内産婦人科確保の取り組みで、医療フォーラムの開催が市民の意識を変えたのかということについて、また、市内の出産数200件の確保の見通しについて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

ことしの6月に、糸魚川総合病院と行政とで市内産婦人科利用促進プロジェクトを立ち上げ、月1回程度プロジェクト会議を開催し、危機感を持って取り組んでおります。

妊娠された方の市内出産予定者の割合が多くなったことから、フォーラムを初めとした各種周知活動により、関心を持っていただけたものと考えております。

7月以降、妊娠届け出をされた方の出産が、今年度末以降と見込まれることと、妊娠届け出数が減少していることを考えると、今年度中の市内出産200件は厳しい状況ではありますが、妊娠された方の1人でも多くの方から、市内で出産していただけるよう重点事業として、今後も取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この機会に、改めて担当課から市民にしっかり伝えてほしいことは、市内出産によって産婦人科を確保できたときと、できなかったときの違いです。とかく、市外の産婦人科病院とサービス面を比較検討されますが、その反面、地元で産婦人科がなくなるリスクを市民にどう理解していただくか、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

地元での出産は、ご家族の負担も軽減されますし、また総合病院であることから、小児科医師やほかの専門医、また、多職種の専門職がおりますので、個々に応じた対応をしていただけるという点では、大変、安心感もあります。

産婦人科医師が確保できなければ、婦人科疾患の受診の方、また婦人科の健診の実施や、小児科

医師の確保にも影響が出ます。地元で産婦人科がないと、市全体が困る事態になること、そうならないためにも、地元での出産が大事なことであるということ、市民の皆様にご理解いただけるよう、引き続き周知をしまいたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうですね。

市内の出産をテーマにした医療フォーラムに私も出席しました。内容はよかったと思います。今回、伺ってきたような産婦人科存続の危機感というものを市民に伝え切れたのかどうかという、そこはちょっと弱かったように私には感じられました。フォーラム開催の目的はそこじゃないですか。地域医療全般に係ることですよね。もっと危機感を出して、市民の意識を変えていってほしいということなんですけども、そのところはこれ、市民部長の仕事じゃないですかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

お答えします。

地域医療フォーラムは、厳しい地域医療の現状について、市民の皆様にご理解とご協力をいただくことを目的に実施しておりまして、本年度は、特に厳しい産婦人科医の確保について解説させていただきました。フォーラムにご来場の市民の皆様には、産婦人科維持の危機感を共有させていただき、また里帰り出産も重要なことから、お盆で帰省される方にも含めて、産婦人科の厳しい現状について、ぜひ多くの皆様に広めていただきたいことを、会場をお願いをさせていただきましたが、ご指摘の産婦人科維持への切迫した危機感、そしてぜひ、市内で出産しようという意識を高める点について、弱かったというご指摘につきましては、さらに反省して、また重点的に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

それでは次に、医師・看護師・診療科の不足による、市民からの苦情対応について伺います。

病院・医療の受診環境が改善されないことに不満を持つ市民がふえています。苦情を不満という言葉方を私はしましたが、不便さを感じづらい思いをされている市民がたくさんいる現状、行政はどう把握し、どう解決していくのか伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

市民の皆様からいただきました要望や不安等は、当課で把握をしております。特に診療科の充実の要望では、脳神経外科・耳鼻咽喉科についていただいております。市民の皆様の不安は大きなものと受けとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

受けとめておると。どう解決するかってことですよ。そこなんです、一番伺いたいことは。市民にとって、地域医療の評価、これどうしても自分というものが指標となっていくと思います。また、自分や家族の治療に対して高度な医療を求めてくることは、もっともなことだと思います。糸魚川総合病院での脳神経外科と耳鼻咽喉科への不満が多いと私は理解していますが、これが改善されていく兆しはないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

医師確保の通常の要望活動に加えまして、糸魚川総合病院では独自でいろんな方法で確保に向けて取り組んでいただいております。このたび、脳神経外科医師の確保について、前向きな情報をお聞きいたしましたので、確実な確保に向けて、市でも支援をしてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

脳神経外科の医師確保、進んでいると。富山大学からの医師派遣が困難になって、救急医療に不安がありましたけども、そういった中でこれ、奇跡に等しい事柄だと私は思います。これは、貴重な医療資源の確保ということで取り組んできた、糸魚川総合病院の病院長の功績でしょうか。当然、米田市長のご支援・ご理解があったことと思いますけども。

この際、伺いますが、糸魚川総合病院の戦略的な総合医の育成、それから研修医確保などの取り組み、どれだけ大切で重要なことなのかということ、市民にも理解してもらいたいなとも思うんですよ。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

研修医に来ていただきまして、また、残っていただくためには、地域や病院の魅力が必要なことだと考えております。特に、総合診療医につきましては、糸魚川総合病院の不足の診療科をカバーするという面におきまして、非常に重要な診療部門だと考えております。先生方の熱心な指導の成果もありまして、研修医が増加しております。今後も研修医の紹介など、市民の皆様の関心を高め

ていけるよう、引き続き支援と周知に努めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう一つの市民の不満、耳鼻咽喉科について。これ週2回の診察・診療ということなんですかね、そこら辺の現状について教えてください。また、他市と比べて、どういう状況でしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

耳鼻科の医師は、全国的に不足しているとお聞きしております。上越地域でも常勤医師がいない病院もあります。ただ、耳鼻咽喉科につきましては、市内においては常勤医師がいない唯一の診療科でもありますので、医師の確保というのが、大変重要になってきていると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

どうしても、その県立中央病院とか黒部市民病院と、糸魚川総合病院を比較して評価する市民が多い。この点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

上越の県立中央病院、また黒部市民病院におきましては、耳鼻咽喉科につきましては充足をしております。また、上越地域におきましては、開業医の先生方も耳鼻咽喉科を開業しているということがございますが、なかなか糸魚川市がその常勤医師の確保が難しい現状でございますので、先ほど説明させていただいた総合診療医によるカバーというのが、糸魚川市にとっては今できる、糸魚川総合病院にとっても今、取り組んでもらっていることのひとつだと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう一つ、その病院スタッフの待遇について指摘してくる市民もいるんですね。数少ない看護師が忙しくしている中で、なかなか待遇改善、難しい面もあるとは思いますが、ただ、改善できる部分については、市からも病院に要望してほしいと思います。その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

病院への苦情については、いただきました内容を、病院にその都度お伝えし、状況も確認しながら改善を要望しております。また、今回、プロジェクト会議の研修の一環で、市外の病院へ研修に行ってまいりましたので、今後に生かしてもらえるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市民からの苦情・不満・不安は、そういったことはよく調べて、そして病院へお願いをしていただきたいと思います。

あわせて、市民の医療マナーの向上ということも考えていく必要があるのではないか。具体例を聞けば、面会時間を守らないお見舞いとか、そういったことへ看護師さんが対応していると、本来、医療行為をするその時間が削られて、結果、医療の質を落とす原因になっているというような話も聞いております。市民一人一人が医療マナーを守ることで、地域医療は守られるんだということを市民に理解してもらおう、これも行政の大きな仕事、役割だと思いますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

健康増進課長（横澤幸子君）

医療のマナーにつきましては、これまでも救急医療を中心に周知をしてまいりました。面会等、医療現場で困っている状況につきましては、今、議員がおっしゃられたとおりのことが、病院のほうで困ってる現状があるということにつきましては、今後、病院にも十分お聞きし、市民の皆様にご協力をいただけるよう周知に努めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

医療現場のマネジメントは、当然、医療機関が行うと。その現場がうまくいくように、市民の意識を変えるのは行政。医療機関と連携しての市民教育は、糸魚川市のような人口減少と高齢化と医師・看護師不足に悩む地域の共通課題ではないでしょうか。行政が医療体制を支えるために、市民意識をよい方向に変えていくこと、それで地域医療を守ること、その行政の働きが問われていると私は思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり、高齢化社会という状況の中においては、地域医療が非常に大きな役割を担っておると思っております。そういう中で、やはり糸魚川総合病院1つということは、非常に集中的に負担がかかっているところもあるのだろうと思っておるわけでありまして、その辺をやはり、我々行政がしっかりとサポートしながら地域医療を担っていただきたいと思う次第でございますし、糸魚川市といたしましても、その辺をしっかりと努めていかなくはないと思っておる次第でございますし、この今までのご質問の中にもありましたように、いろいろなやはり情報等は、つづさに糸魚川総合病院のほうへ伝え、そしてまたそれを調べていただいて、またそれを我々に返していただいて、市民に伝えていくというような形をとっておる次第でございますので、これからもそういった連携が、しっかりとスピーディーに進めていくことが大切と思っております。まだまだ厳しい医療環境にあると捉えておるわけでございますので、引き続きしっかりと捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私、これまでも議会で訴え、改善していただいたことですが、行政から市民への医療情報をきめ細やかに出していきたいということを改めて。

ホームページやお知らせばんでの周知については、訴求力の高い情報の出し方を考えていただきたいと思います。今のシーズンなら、正しいマスクのつけ方とか、感染症予防の情報ですが、現在の情報の出し方では見えにくいし伝わりにくい。

ホームページをごらんください。まだ改善の余地があると思います。常に庁内で検証しているのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本総務課長。〔総務課長 山本将世君登壇〕

総務課長（山本将世君）

お答えをいたします。

ホームページにつきましては、それぞれの課の中におりますホームページの担当職員、そういった者を集める会議を開催する中で意見をいただいて、改善できるところにつきましては、改善を進めているところでございます。ただ、細かな部分について、まだ対応し切れない部分も一部あるということは、認識をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

総務課長は医療のこともお詳しいんですから、どうぞそこら辺、よろしく願いいたします。

先ほど市長からお答えいただきましたけど、もう一度、私、この地域間の医療格差について、市長に伺いたいと思います。

厳しい医療の状況は続き、市民の苦情や不安の声は、私のところにも届いています。何とか改善

していただきたい。安心して住める糸魚川市にしていきたい。

一方で、夜間の救急医療を拒まない病院が糸魚川にあることは、実は大変難しいことをやってもらってることを市民からは理解してほしい。行政の対応次第では近い将来に、地域の医療基盤を失うという大きな危機感を持ちながら、改めて訴えさせていただきます。

市長からは、トップとしての意思表示と総括をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭の中村議員の中でも、少し話をさせていただきましたが、地域医療は非常に大切であるわけでございまして、私が市長になってから、非常に大きく今、変わってきている状況がございますので、その辺は非常に重要に捉えております。

そういう中で、今また、診療その状況がまた変化をしていると捉えておるわけでございますので、やはり新潟県として、医療はどうあるべきかというようなところも捉えながら、我々は市長会の中でも考えていけなくちゃいけない部分でもありましょうし、米山新知事ともそういった話をさせていただいております。地域医療も大きな、やはり糸魚川の課題として取り上げさせていただいて、懇談をさせていただきました。

また、今やはり、糸魚川総合病院のこの厚生連という枠の中にあるわけでございますので、厚生連として糸魚川市としてどうなんだというようなところも、今、この厚生連の理事の皆様方とそういう話もさせていただいております。

ですから、今、置かれている現状でよしといたしておるわけではございません。まだまだ医療環境が悪くなるだろうというのを想定しながら、もっと先駆けてどうあるのがいいのか、どうすればいいのかというのを視野に入れながら、今、取り組ませていただいている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今ほど、知事のほうにも強く訴えているというお話を伺いました。

私は、糸魚川での医師・看護師不足の状況を市民がいつまでも我慢することがないように、糸魚川のような地方都市への医師派遣を国の制度改正で義務化していくことを、市長からも強く訴えてほしいと思います。また、そのように努力するのであれば、糸魚川市民からも見えるようにしてほしいと思います。強く要望いたします。お願いします。

それでは、権現荘の問題であります。

権現荘の機械室の騒音問題。結局、何が原因で夜間、寝られないほどの騒音が発生していたんですか。いま一度、詳細に説明願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

お答えいたします。

こちら、2点ございます。厨房の天井内に設置されている排気用の送風機の運転により発生する振動、微振動が床に伝わってうるさかったというのが1点。それと、321号室の部屋の中に、パイプシャフトに空調用の冷却水管が機械室より屋上の冷却塔に配管、その管が入ってるということで、冷温水発生機のポンプ等の運転騒音が、この配管に伝わってその部屋に入ってくるんだということの、この2点が原因であるというふうに報告を受けております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、最後、報告を受けておりますということですが、原能生事務所長はそれは確認してないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

残念ながら、まだ確認しておりません。また、この12月には、また泊まる機会もございますので、そのときにぜひ実地で体験をしたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

これまでの、この騒音問題に対してのご答弁は、あたかも能生事務所長が自分で確認したかのごとくのお話でしたよ。私たち、それ信じてたんだけど、この12月に、いよいよ所長が自分でそれを経験されるんですか。

じゃ、その騒音、誰がいつ泊まって確認したんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

今までの答弁の、騒音の部分のくだりについては、今までのお客様の苦情であるとか、ホームページに、るるぶ等の書き込みの中で、騒音があったということのものを総称して、まとめてそういうものがあったということで、報告をしていたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

じゃ、原さんが能生事務所にみえる前からの話ですけど、これ、じゃ、誰もあれですか、確認してないんですか。誰か確認したんでしょう、市の職員さんが。いかがですか。

議長(倉又 稔君)

暫時休憩します。

午後 2時19分 休憩

午後 2時20分 開議

議長(倉又 稔君)

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長(原 郁夫君)

権現荘の職員も、泊まったときにそれを確認したということを聞いています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

その職員というのは、どなたですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長(原 郁夫君)

失礼しました。泊まったものの音を聞いたということではなくて、昼間に行って、その騒音を確認したということの報告でございました。失礼します。

〔発言するものあり〕

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

能生事務所長、私に、前小林支配人が泊まったときに、うるさくて寝られなかったんでっていう説明をされたことありませんでしたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

支配人は、本当に数多く泊まっておりましたので、実際にその音を聞いていて、うるさいということ、私には言っておりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私に言ってたって言うけど、能生事務所長、前のお話からなんですよ。どうして支配人はその騒音が発生したときに、それをすぐ改修してお客さんを泊めるように動かなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

321号室の騒音の話ですけれども、ここまでのお話でも申し上げてきましたように、お客様からの苦情によって、そこに泊まって夜眠れなかったというような苦情が多く寄せられたということから、その部屋をお客様としては余り使わないようにしてきたということでありまして、したがって、宿直をするときには、その部屋を使うようにしてきたという状況であります。

また、音がどのように発生しているかっていう点については、機械の音がするわけですけれども、その状況を昼間等、職員も行って確認をしておりますが、先ほど来、能生事務所長がお話ししましたように、じゃ泊まって職員が確認したかっていうところについては、そこまでは職員は確認をしていないという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

宿泊施設を経営する者としては、やはり泊まって確認して、どうするかってすぐに対策とらなきゃいけないでしょう。それを怠っていたということですよ、どういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

改修には、すぐには対応できないような多額の費用もかかるというような状況から、対応しなかったわけですけれども、今回のリニューアルのときに、なぜやらなかったのかというような疑問も生じ得るかと思っておりますけれども、今回のリニューアルについてはできるだけ全館が休館する期間を長くならないようにしたいというようなことから、東館については、リニューアルの対象から除外をしてリニューアルの計画をつくり、優先順位の中で工事を実施したというようなことから、

今回のリニューアルの中でも、その部分については改修工事の中に入らなかったということであり
ます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

全く筋の通らない話であります。やっぱり、直すんなら直す、そういう対応からしなきゃいけないけど、やはり前支配人が自分でそこに泊まる理由として、ここがうるさいからお客様泊められないから自分が泊まるんですというふうに使っていたとしか考えられませんよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほど来、言いましたように、客室という形での使用であります。お客様からの、騒音が苦情として頻繁にあるという状況の中で、お客様からは、その部屋に予約をとるときには、そこをできるだけ使わないような形で使用してきたと。ただ、お客様のほうから、その部屋がどうしてもというようなご要望があったときには使ったというふうに、前小林支配人からはお聞きいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

質問に答えてないんですよ。今、最後の小林支配人からお聞きしておりますって、又聞きですか。全然だめじゃないですか。管理もしてないし、稼げるところで稼がないし、直すべきところで直してないんですよ。何か、話の一つ一つが信憑性に欠けるものであります。信用できません。こういう状態を見逃してきた米田市長の責任は極めて重いと思います。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて、一般質問を行います。

1、農業の30年問題について。